

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 4年 12月 1日

事業所名 AIAI PLUS 八千代ゆりのき台四丁目

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	3			放課後等デイ サービスのガイドラ インを参考に一人 当たり2.47㎡以 上の床面積を確 保することが出来 ている。	
	②	職員の配置数は適切である	1	2		法令上の基準人 員の配置を行って いる。一対一を基 本とする手厚い 支援をしている。	より手厚い支援の提供を の為専門スタッフ等の新規 採用を進めている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	1		2		幼児用トイレに段差がある 為、手すり設置などを検討 中。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画 している	1	2			昼礼等にて施設の課題抽 出・改善を行っている。全 職員が参加できるよう機 会を増やしたい。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアン ケート調査を実施して保護者等の意向等を 把握し、業務改善につなげている	1	2		支援内容だけで なく、施設への要 望・改善してほしい 点等アンケートを 実施している。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	1	2		初年度につき、今 回初めての実施 となる。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	3			初年度につき、今 回初めての実施 となる。	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	3			動画研修や施設 内研修の実施し ている。	
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	3				
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準 化されたアセスメントツールを使用している	3				
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	3				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3			お子様の発達の段階や利用時の様子等に応じて、支援内容を変更し工夫している。	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1	2			要望があれば検討する。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	3			個別支援を原則としているが、発達の状況やニーズに合わせて他児がいる状況での小集団で学習等を行っている。	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	3			朝礼・昼礼後に担当職員と支援の内容等の確認を行っている。	多面的な視点での対応が難しくなってしまうことがある為、前回対応職員を確認し、支援の多様性を図る。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3			支援終了時には職員間にて気づいた点を記録し共有している。	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3			利用と記録を確認している。利用の前回記録を確認してその利用時の支援につなぐられるように工夫している。	
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	2	1			
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	1	2			
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	1	2		児童発達支援管理責任者が参画。新型コロナウイルスの影響もあり、電話にて実施。	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	1		2	保護者様との情報共有を通じて実施、または保護者様より要望があれば実施。送迎は行っていない。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	⑳	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3			現在医療ケアが必要なお子様はいない。	
	㉑	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3				初年度の為、幼保等との特別な連携はしていない。今後は関係する施設との連携を進めていく。
	㉒	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3				保育園から小学校就学までのプログラムが主であるため、成人へのニーズには対応が難しい。
	㉓	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		2	1	センターを利用しているお子様の情報共有と共に支援の助言をいただいている。	職員研修等は新型コロナウイルスの影響を鑑みつつ、今後機会があれば参加を検討していく。
	㉔	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			3	交流する機会は現在ないが学年様々な年代が通っている。	要望があれば検討。
	㉕	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している			3	放課後連等に参加している。	
	㉖	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3			送り迎えの際に一日のフィードバックの時間を十分に設けている。	
	㉗	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	1		保護者のご相談を受けた際に対応の仕方を伝達し、その後の様子等を共有いただいている。	対面形式のペアレントトレーニングに関しては新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、複数参加での開催は控えている。今後の状況を見極め、感染防止対策を万全にして開催したい。
	㉘	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3			契約時に必ず行っている。	管理者以外の職員が利用者負担等の説明が出来ないことがある為研修等により、職員の理解を深めるようにする。
㉙	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3			保護者からの要望がある都度、時間を取り行っている。	対応できる職員に限られるため、後日になってしまうことがある。職員の新規採用や研修等によりスキルアップを図る。	

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	2		新型コロナウイルス対策のため保護者交流の機会をつくれていないが、保護者様同士の繋がりの持てる機会を設けたい。
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	2	1		苦情等の対応については契約時に説明。毎回利用時に行うフィードバックの際に苦情や要望をお聞きし、場合によっては別途時間を設けて対応している。	
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	1		月に一回、AIAI PLUS 通信を発行。連絡先を記載している。	現在、電話以外のコミュニケーションツールを検討している。
	③⑤	個人情報に十分注意している	2	1		注意している。	
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	2	1		視覚・聴覚等の発達に合わせた配慮をしている。	
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2		1		要望があれば検討したい。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	1	1	マニュアルは整備されている。	
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	1	1		
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3			虐待の目チェックリストを全職員が共有し、チェックしている。	事例検討等より具体的な内容の研修等の整備を進めたい。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	2		やむを得ない状況において身体拘束を行う場合があることを個別支援計画書に記載、説明し同意をいただくようにしている。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	④②	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	2		食品の持ち込みは禁止している為、対応する機会があまりないが、個人情報の中にアレルギーの記載を行い、職員が確認している。	
	④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3			小さなことでも記録するようにしている。	職員によって記録の頻度等に偏りが見られる為、改善する。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。